

## 医療システム「あじさいネット」

# 遠隔画像診断可能に

## 県内全域をカバーへ

県は本年度、インターネットを介して離島の救急患者に専門性の高い医師が診断する遠隔画像診断について、多くの県内病院が利用している医療ネットワークシステム「あじさいネット」へ移行し運用を始めた。これまでは独自システムを利用していたが、県内全域を網羅する基盤ができたことで規模の拡大につながる可能性もあるとしている。

県は1990年、離島のあじさいネットへ移行した。あじさいネットは、重度救急患者を対象にした遠隔画像診断を開始。国立病院機構長崎医療センター(大村市)と、離島などの13医療機関をインターネット回線で結び、必要に応じて同センターの救急医が診断している。システム更新に合わせて、4月に

あじさいネット NPO法人長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会が2004年度から運営。患者の同意の下、総合病院の検査結果や薬剤情報などを地元の診療所

### Q ズーム

で一括して閲覧でき、診療に生かせるのが主な機能。現在、情報提供する拠点病院が17、情報が閲覧できる病院が183、登録患者数は約2万7千人と、全国最大規模の医療ネットワークシステムになっている。

遠隔画像診断の導入先を増やすには、診断拠点となる病院や医師の確保が不可欠。長崎、佐世保両市にも拠点を置き県内全域をカバーできる態勢が理想的として県は現在、あじさいネットを運営するNPO法人長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会や病院側と情報交換を進めていると

いう。

約200の医療機関が登録しているネットワークでは、画像の鮮明度や情報管理の安全面も向上した。県医療人材対策室は「あじさい

いネットの性能と規模をつまぐ活用し、本県医療の充実につなげたい」としている。遠隔画像診断を含むあじさいネットの機能を医療関係者に紹介する研究会が11

日、長崎市茂里町の県医師会館で開かれる。定員300人。参加無料。問い合わせは同協議会事務局(電話095・844・1111)。(中島宙)